



撮影・田村太平
文・寺本正尚

きぬがわせい さくこうきョウ
衣川製鎖工業株式会社

鉄のふしぎ博物館
館長 衣川良介さん (66)



開館時間 九時～十八時
休館日 なし(予約制)
入館料 無料
住所 兵庫県姫路市飾磨区阿成渡場一―一
電話番号 〇七九―二三四―一五一五
アクセス 山陽電鉄妻鹿駅より徒歩三分。JR姫路駅より車で十分
ホームページ <http://www2.mememator.jp/kingawa/>

来て見て触れて

ふしぎ体感

「問題。石は磁石にくっつくでしょうか？」それくらい小学校で習ったはずだが……ご覧の通り。(19ページ中段右) 墓石にも使われる一般的な御影石が、丸いネオジム磁石に吸いついた。町工場の二階、わずか十五坪ほどの博物館はまさにワンダーランド。ヒモでつるされているのは天然の磁石。まるで職人の手によったかのような、銀色の正確な立方体は黄鉄鉱の結晶。かざしたものが二重に透ける方解石。玄武岩は、置いた場所に

よって方位磁石が別の方向を指す。これは豊岡市の家庭で、普通に漬物石として使われていたもの。ナゼ? どうして? 常識がごとごとく覆される。「常識は疑うものです」と館長はニンマリ。

鉋のリズムを子守唄にし、赤く焼けた丸棒が先代の手で見るみる鎖となっていく不思議な光景に目を輝かせた少年時代。大学卒業後すぐに扉をたたいたが、鎖や鉄への興味

が尽きない。研究を重ねて立ち上げたホームページ「むらの鍛冶屋」は、十五年で三十万アクセスに。各地の研究者から、希少な鉱物が集まった。鉄を作る微生物の化石・ストロマトライトの断面や、隕鉄(爆発し、隕石となる天体の中心部)の輪切りなど、スミ

ソニアン博物館も脱帽モノがズラリ。

「手にはいるときに、手にはいる人にしか手にはいらな

いものばかりです」
来訪した学者や研究者と、鉱物談議に花が咲く。校外授業の小学生は目を輝かせて、思い思いの実験で遊ぶ。というのも、ショーケースがなく、ほとんどの展示物が触って体験できるからだ。

「私ら、もの作りの職人は見ただけでは判断できないんです。持ってみて、触ってみないと解らない。日ごろから五感すべてを生かした生活をしていきます」と熱く語る館長は、最後にこう締めくくった。「子どものときの疑問は好奇心のみなもと、それを持ち続けましょう」



